

校長室から
(R元年度)

ひがしなら通心

茨木市立東奈良小学校 川上 隆 No. 22

令和元年7月16日(火)発行

夏の声



夏といえばどんなことを思い浮かべますか。アサガオ、ひまわり、おしろい花などの夏の花を思い浮かべる人。浴衣姿でうちわ片手に盆踊りの様子を思い浮かべる人。かき氷、スイカ、トウモロコシ、そうめん、ひややっこ、枝豆などの食べ物も夏らしいですね。

では、夏の音はどんな音でしょう。花火の音、風鈴の音、雷、いろいろありますが、夏になると聞こえてくる虫の声があります。よく聞くのはセミの声ですね。江戸時代に松尾 芭蕉(まつお ばしょう)という人が作った

「閑(しず)かさや 岩にしみ入る 蟬(せみ)の声」

という有名な俳句があります。東北地方を旅した芭蕉は、その土地その土地でたくさんの俳句を詠み、『奥の細道』という句集にまとめました。山形にある寺で詠んだのがこの句です。

セミには「チーチーチー」とか「ニーニーニー」と鳴くニイニイゼミ、「ジージー」とか「ジリジリジリ」と鳴くアブラゼミ、「カナカナカナ」と鳴くヒグラシ、「ミーンミーン」と鳴くミンミンゼミ、「オーシツクツク」と鳴くツクツクボウシ、「シャーシャーシャー」と鳴くクマゼミがいます。人の声もなく澄み切った夏の静かな様子を感じさせるセミはどのセミでしょうか。よく聞くのはアブラゼミです。寂しそうに聞こえるのはニイニイゼミです。人々はいろいろ考えました。芭蕉はいったいどのセミの声を聴いて句を作ったので

しょう。調べてみると、芭蕉が山寺で作った時期は梅雨明けの頃だとわかりました。セミの種類はニイニイゼミでした。初夏にはニイニイゼミ、夏の真っ最中の暑いときにはアブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、夏の終わりにはヒグラシという順番に鳴くからです。

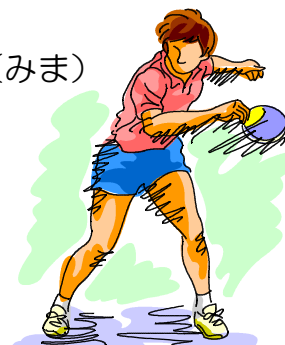
セミは5～6年土の中にいて大きくなり、自分で穴を掘って地上に出てあの姿に脱皮します。ひと夏、声の限りに仲間を呼び続けると一生を終えてしまうのです。そんなセミを探してみませんか。



努力できる才能を！ ～やりきる力を身につけよう～

昔から、「努力は裏切らない」とか「努力は報われる」など、努力の大切さを強調しています。「天才とは、1%のひらめきと99%の努力である」と発明王エジソンも言っています。一方で「三日坊主」という言葉もあるように努力を続けることは難しいのです。

今、日本のいや世界の卓球界をリードしている伊藤 美誠(みま)選手は18歳です。彼女は、2歳の頃から卓球を始めました。毎日毎日、何時間も努力し今の強さを手に入れました。まさに「努力に優る天才なし」です。2歳の子どもの1日8時間も卓球に打ち込むためには、親の力が必要になります。今の伊藤選手があるのは、伊藤選手の努力と親の努力であり、二人の力で、どんな日も8時間の卓球練習をやりきった結果なのです。しかし、多くの親はそこまでやることはできません。また、多くの子どもも1日8時間の卓球を毎日行うことができません。どうも私たちは、努力を積み重ねることが苦手なようです。



ですから、努力を続けられること自体が才能なのです。私たちは、努力を続けるための才能である「やりきる力」を高めることが必要なのです。それでは、やりきる力を身につける方法を紹介します。自分が「1回だけなら簡単にできること」を短い期間続けることです。たとえば「漢字を3個覚える」これを「1週間続ける」などです。そして最終日までやりきります。とにかく自分で決めたことをやりきるのです。この小さなやりきる積み重ねが自信となり、やりきる力を高めていくことになります。みなさんも、何か取り組むことを決めて、最後までやりきりませんか。できれば、2学期にやりきった報告や感想をたくさん聞かせてもらえると嬉しいです。

夏休み、規則正しい生活を心がけ、心も身体もリフレッシュできればいいですね。そして、何かをやりきる夏休みにしましょう！

みんなのためのルールブック

「あたりまえだけど、とても大切なこと」 ロン・クラーク 草思社

ルール22 お客さまを歓迎(かんげい)しよう

お客さまが来るときは、出迎えをして「よくいらっしゃいました」と歓迎の気持ちを伝えよう。

●初めての場所を訪れるときは、だれでも不安なものだ。お客さまが慣れない環境(かんきょう)の中でも心地よさを感じ、歓迎されていると感じてもらえるような気をくばろう。転入生(てんにゅうせい)が入ってきたときも同じだ。